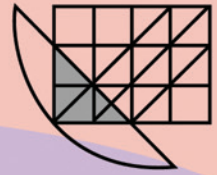


博物館だより



和歌山県立博物館
WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

No.18
2013.3



白浜町立富田小学校における防災教育の実践報告



パネルディスカッションでの意見交換

フォーラム

「来たるべき“南海大震災”に備えて
—過去からの警鐘に学ぶ—」(田辺市)

過去からの警鐘を 未来につなぐ



濱ノ瀬地区での聞き取り調査



濱ノ瀬地区にある
「津浪之記憶」碑

災害記念碑の調査(美浜町)

先 人たちは、自ら経験した災害を忘れないようにするため、災害記念碑を建て、文書に記して、後世の私たちに「災害の記憶」を伝えてくれました。
東海・東南海・南海地震がいつ起こるか分からない状況のなかで、先人達が残してくれた「災害の記憶」を風化させることなく、子孫に伝えていこうとする取組が各地で行われています。

県立博物館の取組を学校や地域へ

県立博物館では、平成24年春に特別展「災害と文化財」を開催し、文化財レスキューや防災教育に関わる講演会などを実施して、防災について考えていただく機会をもちました。展覧会終了後も「災害の記憶」を共有していくために、災害記念碑の所在調査や「災害の記憶」に関する聞き取り調査を継続的に行ってきました。

調査によって確認できた災害記念碑については、その所在地を一覧にまとめ、博物館のホームページで公開しています。「災害の記憶」をできるだけ多くの人と共有し、その記憶を継承していく取組へとつなげていきたいと考えています。

また、フォーラム「来たるべき、南海大震災」に備えて」を開催し、災害記念碑等の文化財を活用した取組について、学校・社会教育関係者が意見交換を行い、これからの取組について考える機会となりました。

県立博物館では、自らの生命と財産(文化財等)を守っていく活動(学校での防災教育や地域における自主防災組織の取組)が一層推進されるよう、今後も地域や学校と連携して取り組む、その橋渡しとなるよう活動を続けていきます。

「災害の記憶」を伝える記念碑や古文書について、何かご存じの情報がありましたら、県立博物館までお知らせください。

特別展

紀伊国栲田荘と文覚井

—水とともに生き、水を求めて闘う—

10月26日(土)～
12月1日(日)



重要文化財 栲田荘絵図 神護寺蔵

（和歌山県指定史跡）の現状を紹介し、貴重な文化財をいかにして後世に残していくかを考える機会にしたいと思います。



重要文化財 栲田荘絵図 宝来山神社蔵

この特別展では、中世以来、笠田地域の水田を潤した基幹水路である文覚井（一ノ井・二ノ井・三ノ井）、近世初頭に木食応其によって改修されたと考えられる太尾池、近世中期に大畑才蔵によって開削された小田井など、水との関わりに視点を置きながら、笠田地域やその周辺に残された貴重な文化財を紹介し、その歴史を明らかにしていきます。あわせて、危機に瀕している文覚井（和歌山県指定史跡）の現状を紹介し、貴重な文化財をいかにして後世に残していくかを考える機会にしたいと思います。



上人滝(文覚井一ノ井の水が、風呂谷川の源流に落ちるところ)



宝来山神社(左)と神願寺(右)

所蔵者不明の盗難文化財 博物館で保管しています

平成22年（二〇一〇）から同23年春にかけて、和歌山県では文化財の盗難被害が多発しました。犯人逮捕後、証拠品として押収・提供された文化財のうち、所蔵者の判明したものについては順次返却されましたが、その後も所蔵者不明のままの資料が一定量残されました。

和歌山県立博物館では、こうした経緯をもつ文化財を和歌山県警察から引き継ぎ、保管しています。和歌山県の歴史を伝える貴重な文化財を、一つでも、本来の所蔵者の元に戻すことができるよう、展示やホームページを通じて情報を公開しています。

心当たりのある方は、どうぞ博物館までお問い合わせ下さい。



博物館で保管している所蔵者不明の文化財

■ お問い合わせ先 ■

和歌山県立博物館
TEL (073) 436-8670
<http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>

特別展

桑山玉洲のアトリエ

—紀州三大文人画家の一人、

その制作現場に迫る—

4月27日(土)～
6月2日(日)



梅花書屋図 桑山玉洲筆 個人蔵



画材道具類(桑山玉洲所用) 個人蔵

和歌浦出身で、江戸時代の紀州を代表する文人画家である桑山玉洲(一七四六～九九)は、家業の廻船業を継ぐかたわら、画家を志し、中国の絵などを参考に、ほぼ独学で絵を学びました。近年、その玉洲が収集していた中国の書画や、玉洲が使用していた画材道具・印章などが一括で発見され、玉洲の画室(アトリエ)の状況が明らかになってきました。こうした資料は、玉洲の絵画制作を知るうえできわめて重要な資料であるとともに、江戸時代の文人画家がどのような中国絵画を学び、どのような絵画制作をおこなっていたかを示す具体的な資料でもあります。この特別展では、それらの玉洲旧蔵資料とともに、玉洲の代表作を展示し、彼の絵画制作の過程に迫ります。

特別展

黄河と泰山

—中華文明の源と世界遺産—

9月14日(土)～
10月20日(日)



泰山(十八盤)

この特別展では、山東省あるいは中国を代表する自然資源の黄河と泰山に育まれてきた山東省の悠久の歴史・文化を県民の皆様を紹介するものです。

山東省では、古来、黄河文明の一端を担う大汶口文化・山東龍山文化といった高度の文明が生まれています。そして春秋戦国時代には、日本にも大きな思想的影響を与えた孔子を初めとする多くの思想家が誕生しました。また、秦の始皇帝以来、歴代の多くの皇帝は泰山で封禪の儀礼を行い、また孔子への畏敬の念から、多くの宝物を孔家へ奉納してきました。そして、泰山は道教や仏教の信仰の対象にもなり、多くの中国の人々の心の中で大切な存在として、様々な文化が生み出されてきました。黄河と泰山により育まれた中国文明を代表する文物、さらにはわが国への歴史・文化にも影響を与えてきた数々の作品を、

山東省の悠久の歴史に思いをはせながら、お楽しみください。

